

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 算数A, 理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 算数B, 理科〕
・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・ 実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容 ・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

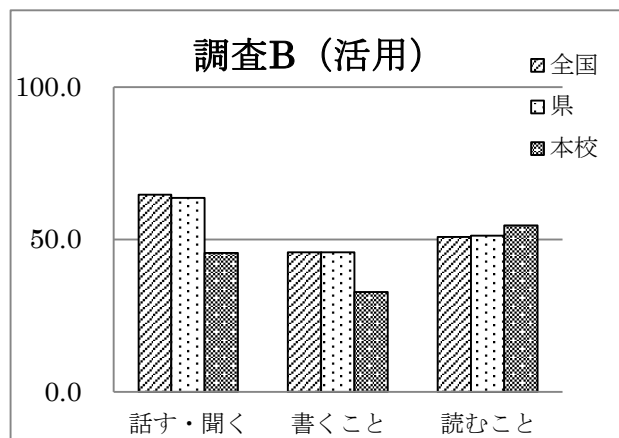
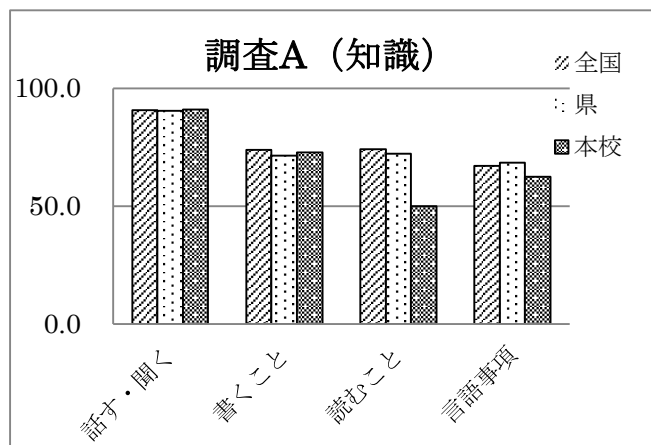
全国学力学習状況調査は小学6年生(中学3年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数(数学)、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1 国 語

(1)結 果

全国・佐賀県正答率との比較(領域別)



調査A（基礎的な知識を問う内容）では、「読むこと」の領域が全国平均を下回っている。調査B（知識・技能の活用を問う内容）は、「言語事項」だけが全国平均を上回っているが、「話す・聞く」「書くこと」は全国平均を下回った。無解答率は低く、最後まであきらめずに問題と向き合っているが、全体的に、複数の正答条件を満たさずに誤答になっていることが、平均値を下げている要因であると思われる。

(2)成果と課題

【話す・聞く】

調査Aでは、正答率が全国平均とほぼ同じであるが、調査Bでは、全国平均を下回った。調査Bでは、相手の話の内容を受け、司会者が求めた内容について自分の考えを話す問題で正答率が18%と低かった。自分の考えをはっきり持つことや、条件を満たして解答する力をつける必要がある。

話す・聞くの活動の中で、相手の考えと比べることや自分ならどんなことを思うかをどの学習でも意識させていく。

【書く】

調査Aでは、正答率が全国平均とほぼ同じであるが、調査Bで全国平均を下回った。特に、正答条件を複数満たさなければならない問題の正答率が低かった。文章を読んで、キーワードとなる言葉を取り上げたり、問題文の条件に合うような言葉を使ったりして書く力が十分ではなかった。国語の時間に書く活動を重点指導項目として取り組むと共に、朝の時間に、テーマ作文や条件にあった文章を書く活動に取り組み、書く活動に慣れ親しませながら力をつけていく。

【読む】

調査Aで全国平均を下回った。ここでも、正答の条件を満たしていない解答が多かった。文章の内容と問題を関連付けて読むことや、問題の条件を落とさずに読む力を身につけさせていく必要がある。調査Bでは、全国平均をやや上回っていた。

【言語事項】

正答率は、全国平均をやや下回っていた。漢字の読み書きで、個人差が大きかった。同音異義語の書き取りの正答率が低かったので、重点的に取り組む必要がある。日々の宿題の漢字の書き取りや、小テスト等の取り組み等、毎日の積み重ねの学習を継続させていく。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 火曜日に「スピーチタイム」と「すらすらタイム」を設定しています。「スピーチタイム」では、自分のテーマで原稿を書いてスピーチを行い異学年での感想交流を行っています。スピーチタイムの中で、話し方・聞き方の基本的なスキルを指導しています。「すらすらタイム」は、テーマ別の作文や条件にそった文章を書く活動を行っています。
- 学校行事の後に作文や日記を書くことで、自分が体験したこと感じたことを表現したり伝えたりする力を伸ばします。
- 全学年で、授業に話し合い活動を取り入れています。自分の考えや感想を言葉で表現し、お互いの意見を交流する場を設定しています。きちんと相手の話の主旨を捉え、それに対して自分の意見を表現できるコミュニケーション力の習得をめざしています。
- 全学年で、朝の読書(さわやか読書)、読み聞かせ(月曜日朝)で本に親しむとともに、落ち着いて学習に臨めるようにしています。図書室の横には子ども達の貸出数がわかる掲示の工夫や、多読賞(60冊達成)の表彰など、子ども達への読書の奨励を行っています。

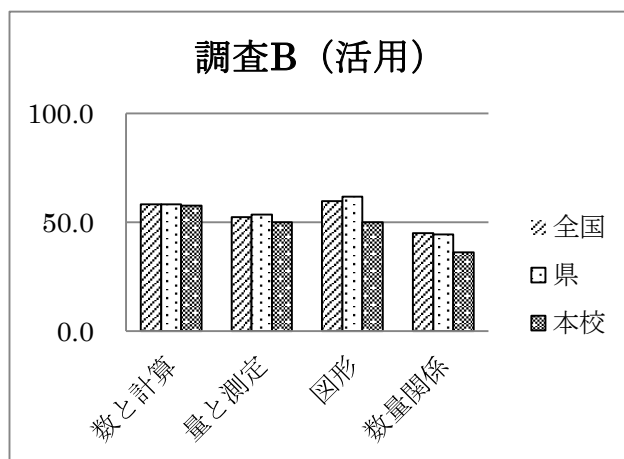
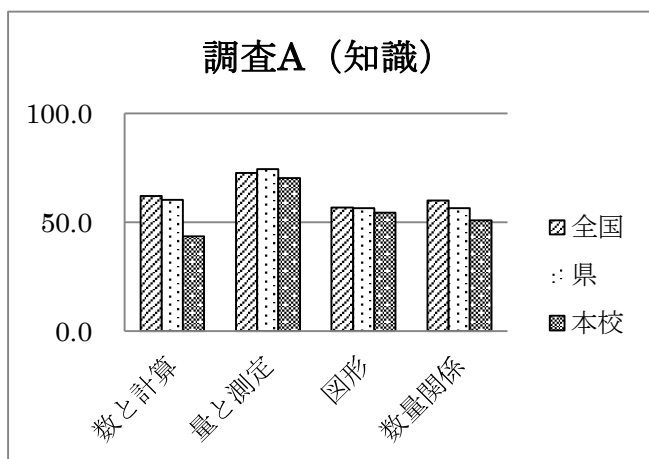
【家庭では】

- 子どもたちの音読を毎日聞いてください。声に出して繰り返し読むことで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。低学年のころから、音読の習慣をつけることは、とても大切です。また、文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上につながります。
- 子どもたちと話をするときは、聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきりと話しましょう。その日の出来事について話をするすることで、共感したり、根拠を尋ねたり、お互いの考えを交流し合って、親子でコミュニケーションをとりましょう。
- 年2回(6月と10月)、本校の図書室で取り組んでいる読書週間に合わせて親子で読書を楽しみ、読むジャンルを広げてあげましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろいろな本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。

2 算数

(1) 結果

①全国・佐賀県正答率との比較(領域別)



調査A(基礎的な知識を問う内容)、調査B(知識・技能の活用を問う内容)ともに、全ての領域で全国平均をやや下回っている。どの領域でも個人差が大きかった。無解答が少なかったのも、最後まであきらめずに考えることはできていた。

(2) 成果と課題

【数と計算】

調査 A で「割合」を求める問題の正答率が低かった。「比べる量」「もとにする量」の関係や「こみぐあい」について学習内容を確認める必要がある。基礎・基本の計算力をさらに伸ばし、算数的な用語や知識の定着を図っていく。調査 B は、全国平均をやや下回った。

【量と測定】

調査 A の「混みぐあい」の問題の正答率がやや低かった。「1 人あたりの面積」での比較と「1 m²あたりの人数」での比較のしかたの理解が不十分だった。ここでも「比べる量」「もとにする量」の関係や、割合によって何を表すのかを確認める必要がある。式の意味を理解したり、関係进行判断する力を身につけたりするために、自分の考えを書いたり説明したりする活動を日々の授業の中に入れる。調査 B では、全国平均をやや下回った。

【図形】

調査 A では直径と円周の長さの関係の問題の正答率が低かった。公式の暗記ではなく、実際に数字を当てはめて計算をして確認する等の解答の仕方を教える必要がある。調査 B では、言葉や式を使って説明する問題の無解答が多かった。条件に合わせて、数学的な用語をつかって説明を書く力を高める必要がある。

【数量関係】

調査 A の二つの条件が読み取れるグラフを選択する問題の正答率が低かった。また、調査 B でもグラフを読み取り、説明する問題で正答率が低かった。グラフがあらわす意味を理解し、それを言葉で説明することが十分でなく、無解答も多かった。内容を理解し、適切な言葉を使って説明する力を高める必要がある。問題文が長くなると、そこから必要な情報を確実に読み取る力も必要となってくる。日々の学習の中で、ノートに図や式、言葉を使って考えたり、それを説明したりする活動を継続させる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 算数科の授業では、課題に対して理由や考えをノートにまとめ、みんなと考えを深め合う話し合い活動を行い、自分の考えを伝えたり友だちの考えを聞いてまとめたりする言語活動を多く取り入れていきます。算数科だけでなく、他の教科の授業でもこの方法を積極的に取り入れて、考える力、話す力を高めていきます。
- ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で、個々のつまづきを早めに見つけ、個別指導や補充指導に努めます。

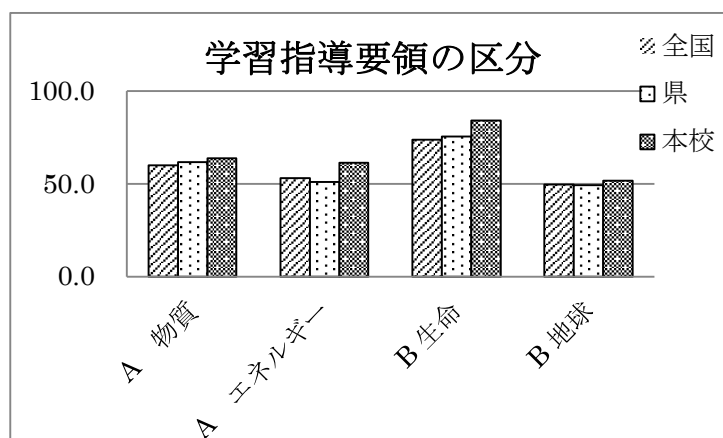
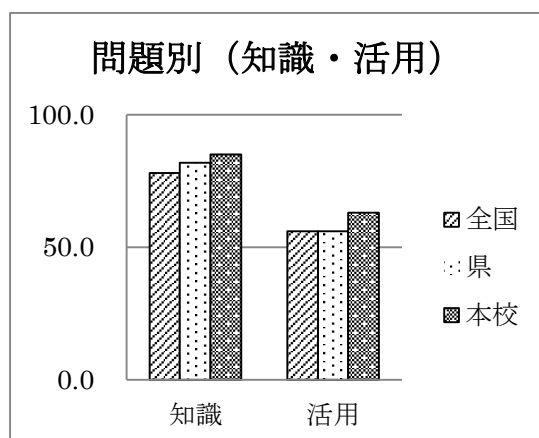
【家庭では】

- 家庭学習や宿題に目を通してください。今、何を学習しているのか、どれくらい理解できているのか、時間がどれくらいかかっているのかを見ながら、たくさんの励ましや賞賛の言葉をかけましょう。もし、つまづきに気づかれたら、連絡帳で知らせていただいたり、ご家庭で教えていただいたりすれば幸いです。
- 親子で算数を楽しんでください。算数好きにするには、「習ったことが、生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが一番です。生活場面で算数を使ってみましょう。「おかし数えでかけ算」「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で割合」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」…ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものがたくさんあります。

3 理科

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較



知識を問う問題も、活用力を問う問題も全国・県平均を上回っている。領域別に見ても、全て全国・県平均を上回った。

(2) 成果と課題

【A区分（物質・エネルギー）】

A区分の問題は、知識問題は正答率が高く、基本的な用語や実験の仕方に関する知識が定着している。活用問題で、食塩の蒸発について実験を通して結論を書く問題の正答率が低かった。実験の結果を根拠と結びつけて文章に書き表す力が不十分であった。予想と結果の違いを比べて、生活経験や既習の知識を結び付けて根拠を表現する力を伸ばしていく必要がある。

【B区分（生命・地球）】

B区分の問題も、知識問題は正答率が高く、基本的な用語や実験の仕方に関する知識は定着している。活用問題で川の流れと侵食の関係の問題の正答率が低かった。間違った予想の結果を問う問題の正答率が低く、既習の知識と示された解答を結びつけることができていなかった。また、水の量を変えて侵食の様子がどのように変化するかを問う問題も、水が増えた時の侵食作用のイメージが、既習内容と実験結果と結びついていなかった。問題の情報量が増えた中から、解答に何が必要なのかを考える力をつけさせていきたい。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験や観察を充実させ、理科の学習が充実する環境を整備します。
- 理科の学習では、生活経験からの予想を大切に、問題解決を通して明らかになったことを実生活との関連で考えるようにします。
- 授業では、「変える条件」と「変えない条件」に分けるなど条件を整理して実験を計画できるようにします。また、実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。

【家庭では】

- 子どもが理科的なことに興味・関心を持ったときに、それにつきあったり理解を示したりする大人や家族がいることは、理科好きな子に育つことにつながります。子どもたちが科学や自然について疑問を持ち、その疑問について質問したり調べたりするときには、ぜひいっしょに考えたり調べたりしてください。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣について》

調 査 の 項 目	本校%	全国平均%
朝食を毎日食べる。(どちらかといえばしているも含む)	100	94.5
毎日、同じくらいの時刻に寝ている。(どちらかといえばしているも含む)	72.7	77
毎日、同じくらいの時刻に起きている。(どちらかといえばしているも含む)	100	88.8
新聞を読んでいますか。(ほぼ毎日、週に1～3回ほど読んでいる)	9.1	19.9
平日読書を30分以上している。	9.1	41.1
平日読書は全くしない。(10分未満)	18.2	18.7

- 起床・就寝・朝食については、全国平均を下回っている項目もあるが、「早寝、早起き、朝ごはん」の生活リズムは概ねできているといえる。
- 新聞を読むについては、全国平均の半分以下である。新聞を家庭で購読しているのが減っていることもあるので、学校で購読している「小学生新聞」を教室において新聞がいつでも手に届く環境をつくる。また、新聞記事をコピーして配布する等、新聞をよむ機会を増やしていく。新聞記事から、スピーチや作文のテーマを決めることもうながしていく。
- 読書については、平日の読書時間が全体的に少ない。図書の貸し出しを促したり、読書週間の取り組み等を通して家庭での読書習慣の定着を進めたい。

《家庭学習の様子》

調 査 の 項 目	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強をしている。	27.3	29.3
平日1時間以上～2時間未満勉強している。	54.5	36.9
平日30分以上～1時間未満勉強をしている。	18.2	23.8
家で自分で計画を立てて勉強をしている。(どちらかといえばしているも含む)	54.6	67.6
家で学校の宿題をしている。(どちらかといえばしているも含む)	100	97.1
家で授業の予習・復習をしている。(どちらかといえばしているも含む)	63.6	62.6

2時間以上の学習時間の割合が27.3%で、1時間以上の学習時間では81.8%となっている。本校の家庭学習のめやす「10分×学年+10分」が十分に定着している。宿題については、達成率が100%であるが、宿題だけで終わっている場合もある。「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の割合が全国平均よりやや低いので、家庭学習の時間を「宿題+α」でどう配分していくか、予習・復習の仕方や自主学習のメニューを提示するなど支援を行い、家庭学習の質・量をともに上げていく必要がある。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- どの学年にも平日の家庭学習の時間を全員が取り組むように、「音読」「漢字の書き取り」「計算ドリル」を基本に宿題を出します。また、家庭学習の充実「宿題プラス1(ワン)」を目指し、授業の復習・予習、自主学習(自学)についても、具体的な取り組み方や分量を各学年で検討・実施していきます。
- 「早寝・早起き・朝ごはん」、「家庭読書の習慣」、「計画的な学習」、「TV・ゲーム」について、「家庭学習がんばろう週間」のアンケートを毎学期実施して、家庭と連携をとりながら定着を図ります。

【家庭では】

- 「早寝・早起き・朝ごはん」は、一日の生活をスムーズにスタートさせるための基本です。これからも子どもたちの、規則正しい生活習慣の定着にご協力をお願いします。子どもたちが自分の力でできた時、少しでも向上した時を逃さず、褒めることで意識が更に高まっていきます。
- 各学年に応じた「家庭学習のてびき」を配布しています。見えるところに貼って、家庭学習の仕方や時間の目安としてご活用ください。家庭の協力や励ましがあれば、子どもたちもやる気が出てきます。まずは、自分で決めて学習できるように励ましましょう。